

## 第1学年 国語科学習指導案

児童 1年2組 23名(男子11名 女子12名)

指導者 及川哲子

- 1 単元名 こえにだしてよもう  
教材名 「くじらぐも」 (光村図書 1年下)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。これを受け、本単元は、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生の子どもたちの前に、雲のくじらが現れるところから始まる。子どもたちとくじらぐもは、一緒に体操をしたり呼び合ったりしているうちに心を通わせ、最後には子どもたちがくじらぐもに飛び乗り、一緒に大空を旅するという話である。自分たちと同じ1年生が登場し、現実の世界から空想の世界へという巧みなストーリーの中で、登場人物と一体となって大空を旅する楽しさを味わうことのできる作品である。

文章は5つの場面で構成されている。どの場面にも生き生きとした挿絵が描かれ、文と挿絵から場面の様子を想像しながら読み進めることができる。また、会話文が多く、声に出して読みながら会話の対比のおもしろさや登場人物の気持ちの高まりなどを想像し、物語を楽しむこともできる。

以上のことから、本教材は、登場人物に同化しながら登場人物や場面の様子を想像したり、声に出して読んだりして物語を楽しむことに適した教材である。

#### (2) 児童について

児童はこれまでに「はなのみち」で文章と挿絵を対応させて読むことを、「おむすびころりん」と「大きなかぶ」では昔話や民話を楽しみながら場面の様子の想像を広げる学習を行ってきた。これらの学習を通して、挿絵や文を手がかりにして場面の様子や登場人物のしたことを想像し、想像したことを発表したり吹き出しに書いたりすることができるようになってきた。しかし、場面の様子や登場人物の行動が変化したことをしっかりとおさえ、動作化などを通してその様子を豊かに想像することや自分の考えに根拠をもって発言することは十分とはいえない。

音読については、はっきりした声で読もうとする児童が多くなってきた。また、音読を聞かせたいという意欲をもち、語のまとまりに気を付けて読むことができる児童も増えてきた。しかし、中には言葉のまとまりを意識できず、拾い読みに近い児童もいる。また、音読が好きでも言葉の意味を意識せずに声を出している児童もいる。何度も声に出して読む中で、相手意識をもたせ、言葉の意味やまとまりを意識して読むことの大切さを教えたい。

#### (3) 指導にあたって

本単元のねらいである場面の様子を豊かに想像しながら読むために、くじらぐもと子どもたちの行動や会話文をしっかりとおさえ、挿絵を手がかりにしたり会話を基にしたりして想像をふくらませたい。また、視写や言葉を想像して吹き出しに書く活動、動作化や役割読みなど、様々な活動を取り入れていく。多くの活動を経験させることで、想像しながら読む場合の学び方を教えていきたい。ここで行う動作化や役割読みは場面の設定をしっかりと確認し、児童が無理なく登場人物に同化できるように配慮していく。

音読については、読む機会を増やし、文と挿絵からイメージを膨らませたことを声に出して読んだり、反対に、声に出して読んだことで想像を深めたりして、物語の楽しさを十分に味わわせていく。

単元の終わりでは、自分が見つけた雲の形から想像を広げ、お話作りをしていく。作った作品を交流し合いながら、友達が見つけた雲のおもしろさやお話の工夫について感じるようにしたい。

### 3 指導事項の関連と発展

「想像を広げながら読む」

1年

はなの みち → おむすびころりん → 大きな かぶ → くじらぐも → ずっと、ずっと、大ききだよ

2年

→ たぬきの糸車 → スイミー → お手紙

### 4 単元の目標及び評価規準

観 点	目 標	評 価 規 準
国語への 関心・意欲・態度	○場面の様子などについて想像を広げ、物語を楽しみながら読もうとする。	・登場人物の言動や場面の様子などを想像して、物語の内容を楽しみながら読もうとしている。
読む能力	◎場面の様子について、想像を広げながら読むことができる。  ○語や文としてのまとまりや話の内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。	・物語の場面ごとに、場面の様子や登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。 ・語や文としてのまとまりや話の内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	○句読点の打ち方や、かぎの使い方を理解して、文章の中で使うことができる。 ○新出漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりすることができる	・句読点の打ち方や、かぎの使い方を理解して、文章の中で正しく使っている。 ・新出漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりしている。

### 5 単元の指導計画と評価規準 (全11時間)

過程 (時)	学習内容(○)と主な学習活動(・)	評価規準 活用したい既習事項(既)
意識をもつ (1)	○題名や挿し絵から、話の筋やイメージをつかむ。 ・今までに見た雲を想起したり、題名や挿し絵から話の筋やイメージをつかんだりする。 ・範読を聞いて、初発の感想をもつ。	<b>関</b> 物語に興味をもち、進んで読もうとしている。(発言・ノート) <b>読</b> 挿絵や文章から、話の筋の大体を読み取っている。(発言・ノート) (既) 設定をとらえる。感想をもつ。
見通しを立てる(1)	○学習の見通しをもつ。 ・好きな場面やおもしろいところを話し合う。 ・学習の進め方をつかむ。 ・新出漢字や片仮名の練習をする。	<b>関</b> 好きな場面やおもしろいところをすすんで見つけようとしている。(発言・ノート) <b>読</b> 話の筋の大体が分かり、好きな場面やおもしろいところを見つけ、発表している。(発言・ノート) (既) あらすじをおさえる。感想を話す。 <b>言</b> 新出漢字や片仮名の読み方や書き方を理解している。(音読・ドリル)
深める(6)	○子どもたちとくじらぐもの出会いを読み取る。 ・子どもたちのまねをするくじらぐもの様子と、それを見る子どもたちの様子を想像しながら読み取る。	<b>読</b> 助詞「も」の働きに着目し、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取っている。(発言・ノート) (既) 挿絵を手がかりに想像する。

	<p>○くじらぐもに飛び乗ることになるまでの子どもたちとくじらぐもの様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちとくじらぐもの会話に着目し、その様子を想像しながら読み取る。</li> </ul>	<p><b>読</b> 会話に着目し、子どもたちとくじらぐもが誘い合う様子を読み取っている。</p> <p>(発言・音読・ノート)</p> <p>(既) 助詞「も」の働き。会話を基に想像する。役割読みをする。</p>
	<p>○くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐもの様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話に着目し、子どもたちとくじらぐもの様子を想像しながら読み取る。</li> </ul>	<p><b>読</b> 行動や会話から、くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子とくじらぐもの様子を読み取っている。(発言・音読・ノート)</p> <p>(既) 会話を基に想像する。役割読みをする。動作化をする。</p>
	<p>○くじらぐもに乗って楽しい空の旅をする子どもたちの様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空の上の子どもたちの様子や会話を想像しながら読み取る。</li> </ul>	<p><b>読</b> 叙述や挿絵から、くじらぐもと子どもたちの楽しい空の旅の様子を想像している。</p> <p>(ワークシート・発言)</p> <p>(既) 挿絵を手がかりに想像する。登場人物に同化する。吹き出しに書く。</p>
	<p>○くじらぐもと別れる子どもたちの様子を読み取る。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くじらぐもと別れる子どもたちの様子を想像しながら読み取る。</li> </ul>	<p><b>読</b> くじらぐもと子どもたちの別れの様子を会話や挿絵から想像している。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>(既) 挿絵を手がかりに想像する。動作化をする。吹き出しに書く。</p>
	<p>○くじらぐもに手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読んで思ったことや考えたことを手紙に書く。</li> </ul>	<p><b>読</b> 物語を読んで思ったことや考えたことをくじらぐもにあてた手紙に書いている。(手紙)</p> <p>(既) 感想を書く。</p> <p><b>言</b> 句読点やかぎを正しく使って文章を書いている。(手紙)</p>
広げる(3)	<p>○いろいろなものに見える雲の形を絵に描き、お話を作る。(1・2時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなものに見える雲の形を絵に描く。</li> <li>・描いた雲が出てくるお話を考える。</li> </ul>	<p><b>関</b> 見つけた雲の形から、想像を広げて絵を描いたりお話を考えたりしようとしている。</p> <p>(作成の様子・ワークシート)</p> <p><b>読</b> いろいろなものに見える雲を見つけ、想像しながらお話を作っている。(ワークシート)</p> <p>(既) 想像したことを書く。</p> <p><b>言</b> 句読点やかぎを正しく使って文章を書いている。(ワークシート)</p>
	<p>○見つけた雲から考えたお話を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を見せながら発表する。</li> </ul>	<p><b>関</b> 自分の考えたお話をすすんで発表するとともに、友達のお話のよさを見つけようとしている。(発表・態度)</p> <p><b>言</b> 姿勢、口形などに注意し、はっきりとした発音で話している。(発表)</p> <p>(既) 発表の仕方。発表を聞いて感想をもつ。</p>

## 6 本時の指導

### (1) 目標

くじらぐもと子どもたちの別れの様子を想像する。

### (2) 研究にかかわって

○既習事項を活用する力

本時は物語の最後の場面であり、子どもたちの様子が書かれている文は少ないが、挿絵を手がかりにして想像したり動作化をしたりすることで想像を広げながら読ませ、それを吹き出しに書いて表現させる。さらに、これまでに想像しながら読み取ってきた場面の様子を振り返り、それを基に子どもたちの様子を考えさ

せていく。この学び方は、前時までに経験してきていることなので、スムーズに学習に取り組むことができると予想される。しかし、場面が変わると前時までのことを生かすことが難しい児童もいるので、ノートや掲示を効果的に活用したり児童の発言に注目させたりしながら進めていきたい。

### (3) 展開

前時の学習	<p>[学習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くじらぐもに乗って楽しい空の旅をする子どもたちの様子を想像する。</li> </ul> <p>[学習活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述や挿絵から、くじらぐもと子どもたちの楽しい空の旅の様子を想像し、吹き出しに書く。</li> </ul>	
過程	学習内容(番号)と学習活動(◎) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・) 評価規準
意識をもつ 5分	<p>1 前時の学習を想起する。 ◎くじらぐもに乗って楽しい空の旅をする子どもたちの様子を想起する。</p> <p>2 学習課題を把握する。 ◎本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>5 くじらぐもとわかれるとき、子どもたちはどんなようすだったでしょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容や学び方を掲示を見ながら想起させる。</li> <li>・学習する場面は、5の場面。</li> <li>・挿絵を見ながら、課題を確認する。</li> </ul>
見通しを立てる 3分	<p>3 学習課題を解決するために見通しを立てる。 ◎5の場面を、先生、くじらぐも、子どもたちの様子に気を付けて音読する。(一斉読・指名読)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の視点として、先生、くじらぐも、子どもたちの様子に気を付けて読むよう指示する。</li> </ul>
深め広げる 32分	<p>4 学習課題を解決するために読み取る。 ◎先生が何に驚いたかを読み取る。 ○「おや、もうおひるだ。」 ○腕時計を見て驚いた。 ○あっという間にお昼になっていたから。 ○楽しくて、学校のことを忘れていたから。</p> <p>◎帰ることになった子どもたちの気持ちを想像する。 ○まだ、帰りたくないな。 ○まだ見ていないところがあるのに。 ○くじらさんとさよならするのかな。</p> <p>◎くじらぐもと別れる子どもたちの様子を想像する。 ○くじらぐもに聞こえるように大きな声で「さようなら。」と言った。 ○楽しかったから、ありがとうという気持ちで笑って言った。 ○さよならするのが悲しくて、泣きながら言った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が驚いたのは、昼になったことそれ自体ではなく、あっという間に時間が過ぎたこと、そして時間を忘れるほど楽しく遊んでいたことへの驚きであることに気付かせる。</li> <li>・くじらと一緒に楽しい空の旅をしていたことを前時のノートや掲示で振り返らせ、旅が終わる寂しさを感じ取らせる。</li> <li>・文と挿絵を対応させながら、子どもたちの言ったことやしたことを確認する。</li> <li>・「さようなら。」を音読しながら動作化し、子どもたちの気持ちにより添わせる。</li> </ul>

<p>深め広げる</p> <p>32分</p>	<p>○くじらぐもが見えなくなるまで手をふった。 ○くじらぐもに見えるように大きく手をふった。</p> <p>◎子どもたちが「さようなら。」の後に言ったことを吹き出しに書き、発表する。 ○また、遊ぼうね。 ○くじらぐもさんの上に乗って楽しかったよ。 ○乗せてくれてありがとう。 ○お友達になれてよかった。 ○せっかく仲良くなれたのに、もうお別れなんてさびしいよ。だから、また遊びに来てね。 ○くじらぐもさんの上に乗って、いろいろなどころに行けて楽しかったよ。また、絶対来てね。</p> <p>◎くじらぐもが「さようなら。」の後に言ったことを想像する。 ○また、遊びに来るね。 ○ぼくも楽しかったよ。 ○みんなとお友達になれてうれしいよ。</p>	<p>・これまでの学習をもとに「さようなら。」の後に続く言葉を考えて、吹き出しに書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>評価規準</b></p> <p><b>読</b> 子どもたちがくじらぐもに言った言葉を想像して、吹き出しに書いている。 (ワークシート)</p> <p><b>十分満足できると判断される状況</b> 子どもたちがくじらぐもに言った言葉を想像して、具体的な表現で吹き出しに書いている。</p> <p><b>努力を要する児童への手立て</b> 板書を振り返らせたり、掲示から前時の楽しい空の旅を想起させたりして、それを手がかりに書かせる。</p> </div> <p>・子どもたちの言葉を受けてくじらぐもが言ったことを考えさせる。</p>
<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>5 学習のまとめをする。 ◎まとめの音読をする。 ◎学習の感想を発表する。</p> <p>6 次時の学習内容の確認をする。 ◎物語を振り返り、くじらぐもにあてた手紙を書くことを確認する。</p>	<p>・子どもたちやくじらぐもの様子を板書で振り返ってから音読する。 ・物語の内容についての感想や学習への取り組み方についての感想を発表させる。</p> <p>・本時のがんばりを認め、次時に生かせるよう励ます。</p>
<p>次時の学習</p>	<p>[学習内容]</p> <p>・くじらぐもに手紙を書く。</p> <p>[学習活動]</p> <p>・物語を振り返り、読んで思ったことや考えたことをくじらぐもにあてた手紙に書く。</p>	

(4) 板書計画

くじらぐも  
なかがわ りえこ

5  
くじらぐもとわかれるとき、子どもたちは  
どんなようすだったでしょう。

「おや、もう おひるだ。」  
じかんをわすれてあそんでいた。とても たのしかった。

「では、かえろう。」  
まだ、かえりたくないな。おわかれするのかな。

ジャングルジムのうえに、みんなを おろしました。

「さようなら。」 ↓ 大きなこえ・わらいながら・なきながら  
みんなが 手をふった ↓ 見えなくなるまで・大きく

さようなら。たのしかったよ。  
のせてくれて、ありがとう。  
ともだちになれて、うれしいよ。  
ぜったいに、またきてね。

挿絵  
くじらぐも  
また、げんきよく、  
あおい空のなかへ  
かえっていきました。

挿絵  
手をふる子  
どもたち